

暗くなつて、本も読めず悲しくなりました。このところずっとさうでしたから、しまひにはあなたの手紙をまち乍らも恐ろしさを感じ、覚悟を決め、それに叩きふせられまいと念じ乍ら読みました。其の度に私の決心は叩きつぶされ、どんなに悲しかったか、これは決して胡張<sup>こざう</sup>ではありません。どうかしたかと人もたづねる位のシヨゲ振りでありました。貴方はこんな事を書くとき又怒るかしら。私は本当に空襲の危険だつて、あなたと一諸なら恐くないし、身体の恢復も仕事を辞める事で計りたいと望んだのですが、それが貴方の勉強生活の邪魔であり、勉強生活の邪魔になる物一切を拒む事を受け入れる事が、あなた及あなたの仕事に対する私の採る道だと聞かされて、嫌々こちらにまいりました。あの時の事を思ひ出すと、屠所の羊と云ふ言葉を浮び出す程です。そして、あなたの当面の仕事の終るまで、まづ九月になれば信州へゆけるとの事でしたが、今は何時になつたらそれが実現するのか、皆目解らなくなりました。それでも私はこちらで、一まはりの皆と精神的には孤立の感じの中で、何とか合流し、意義ある生活をしたいと望み乍ら―あなたの来る日をまち乍ら暮して居りました。時々訪ねてほしいと云ふ希望も、代理の宿直が無いから駄目とのことで、それもあきらめました。だから本当に私にはあなたの愛情を証拠だてる手紙丈が唯一のものであつたのです。

それで、エイ書いとかなくつちや、と云ふ風に日月の下に粗雑に書き流された手紙だと、私はつき離れ疎外された感じを受け、「お前なんか居なくつたつて、こんなに自分は楽しく暮してゐる」とあなたがひけらかしてゐる時は、すがつてゐた藁をも失つた人間と同じ心持になります。

以上、今日のお手紙で矢張りあなたは私をつき離してはゐない事を感じ、本当にどんなに晴々としたかわかりません。十一月には訪ねてくれると云ふことも。

もう直き、あなたのお誕生日が来ますね。他の人達にも話したの？ そんな事はししないでほしいわ。私はいいものを作つて、それまでに送つて差上げ様と思つてゐますが、他の人からお誕生祝を貰つたりすると、私があるをよろこばせ様と思つたのが―何もならなくなるんですもの。

もう夜中や夜明は相当寒くなりましたから、毛布丈では風邪を引くでせう。ここ二、三日は妙に暖いけれど。順々に寒くなるのですから。東京へゆく時は、粉が手にはいつたら粉と、その他林檎や梨が買へたらうれしいけれど。お肉もまああつたら買つて、佃煮にして持つてゆきますから、古田嬢や白田嬢と食べて下さい。さう出来たらすばらしいんだけど。前から宣伝して置いて集められなかつたら大変ね。

No.11のお手紙の返事は又、別に書きませう。あまり長いとうるさがつて、よんでくれないでせうから。

では、廿日夜九時

謙一様

幸子

謙一から幸子あて（一九四四年一月二〇～二二日の記）

十月二十日（金）晴。

御手紙No.15と絵ハガキとを受取りました。

十月八日から一週間ばかりは二人とも手紙を出さないで、お互ひに相手がどうして手紙をよこさないのかと思ひあつたのですね。そのかはり此の頃は連日お互ひに受取つてゐる。尤もあなた此の頃のお手紙はやはり何となく義務的で、僕のあなたへの飢渴をいやしてくれるには足りません。僕の手紙もあなたを満足させないでゐるかも知れませんか。

「プランテイション」を読んでゐるらしいので安心しました。感想とは、どう云ふ事実について特にどう云ふ感情を覚えたか、どう云ふことはもつと詳しい方がいい、どう云ふことについてはくどすぎる、どこの部分は迫力があるが、どこの部分はない、自分にはどこの部分が一番関心を刺戟された、どこが一番興味深かつた、……と云ふ風にも書いてほしかつたのだが、でもまあ感想を求めすぎであなたの読む気持をくじいては何にもならないから、感想は書きたくて書く場合をのぞいて当分書かなくて結構、それより早く一通り読んで下さい。

今日は最近やめた英研のA君（女）の送別会を、おいも三貫匁ふかして総勢十一人でやりました。昼の弁当を一緒にたべる予定でゐた所、彼女がおくると云つて来たので、三時のおやつをやることになり、いもは出来たが肝腎の主賓が一向あらはれないので業をいやして、主賓なしでやらうといもを皿にもりわけようとしてゐたら彼女あらはれ、どうか「送別会」になることが出来たのです。

大部物議のあつた女性で、兎のやうな顔とセキトリのやうなズングリ体躯と生理的不快を感じしめられる媚び笑ひ、肩すくめ、そして化粧もしない何か不潔な感じ、かと思ふと突然町奴の盛装のやうな着物を着て来たり、寐ボケ顔で出勤はするが、帰る時には顔面筋肉がうごかなくなるやうな壁ぬり化粧をやつたりするのは、誰も好感を持ち得ないし、本室にゐた時は買ひ出して席のあたたまるひまさへなく、女の子とケンカするおしやべりする（そのおしやべりで一度上田君に大喝されて、爾来上田君を憎んでゐる）、我々の話題へはガムシヤラに割込んで来る、竹中君をタケノコく

とあだ名で呼び、西井君が来て以来はやたらに大阪弁をわざとらしくつかふ、食べ物その他への強引な胴慾ぶりは、西井君さへかほまけするほどで、分室へ来てからは大分熱心に仕事をするやうにはなつたが、とかく変に体臭の強すぎる存在であつたので、送別会と云ふより、いもを食ふことが目的の会になる傾向強かつたのもやむを得ない。

本年廿八才だが、結婚すると云ふのだが、僕の知つてゐるやうな人で彼女と結婚しようなどと思ふやうな人間はありさうにないと思ふのに、臼田君は彼女は竹中君と結婚するだらうと主張するので、かけてもいいと云つてゐたら、むろんやつぱり竹中君とではなかつた。いつもA君と云ふと悪口を云ひたくなり、面と向つてもずい分づけくくと「君の表情は不快なほど多すぎる」とか、「出しやばりすぎる」(竹中君と話してゐると必ず割りこんで来る)とか、その他同様のことを云つて来たし、直接忠告または苦言も呈して来たが、英語の出来ることを自慢にしてよく英語で電話をかけたたりするだけに、頭が悪いのでもなさうで、うっかりすると竹中君より理解力のあることを示したり、僕の云ふことは割合よくきいて、そのかはり僕もよく愚痴をきいてやつたり、T君や庶務課長なんかには彼女の弁護もしてやつたりしたが、僕の出張の留守番も引き受けてくれるし、僕が外の人にすすめてゐる本をきいてゐて、探していつの間にか読んでゐたり、さう云ふ点では饒別の品物をさがしてあげる労もいとほない程度のもであつた。

今日も実は彼女の送別会に竹中君を呼ぶ連絡をしなかつたことと、送別会のために少し余計買つた<sup>いも</sup>を、明日来る筈の芦野氏のためにとつておかうと云ふ風なケシカランことを主張したことと、T君と一合戦やつたのです。「大体君はいつだつて芦野氏が来るからと云つてはおみやげの野菜に大さわぎするが、そんな必要はないぢやないか。丁度その日に野菜がたつぷりかへたからわけてあげようと云ふのなら異論ないが、君のやりかたは上役にみつきものをささげて御機嫌をうかがふおべつかやのやり方みたいにしか思へない。彼が困つてゐるから頼むと云ふんなら、そりやわけてやるのもいい。だけど余り有難さうな顔もせず、あたりまへのことのやうに受取つてゐる連中なんか、めつたには入らないものを献納に及ぶまでのことはないよ。そんなくらいなら送別会のいもをふかしてくれた小使さんにやる方がよっぽど順当だ。大体経堂へ来ればおみやげもらへるなんてことになつて、用もないのに来る奴が出来るのは、こつちでおべつかするからだ。君だつて芦野氏に人間的な親しみをもつてゐるわけではなささうぢやないか。かげではぶつ／＼悪口を云つてるぢやないか。それに来れば不必要な好意まで示さうなんて感心出来んよ」と云ふ調子でづけ／＼云つたので、さすがのT君もひたすらオベツカでないことを弁解しつつ、「皆さんが反対なら無理にと云ふわけではないけれど」と甚だ弱気な顔をしたので、僕もちよつと云ひすぎたと思つて、余るならいくらかとつておいていいよと妥協し

てケリにしました。

どうもT君と云ひあふと、侮辱的な言葉もはきたくなり、必要以上にとつちめすぎるので、僕も自分乍ら愉快でなく、之からつつしもうと思つてゐたら、T君がさきに歸つたあとで、みんなから、今日のケンカを痛快がつてゐてくれたことをきかされて、若干気がかるくなりました。みんな(男も女も)T君が上へつらひ、下に専横なのを目に余ることと思つてゐるのです。芦野氏に折角のいもをわけてやることにも、みんな反対だったのです。それにしても、女の子はとにかく、男連中はどうして僕と一緒にT君への反対を表明しないのか、いつものことだが少々ふんがいたくなりま

す。

十月二十一日(土)晴。

此の頃、僕は肥つたと思つてゐたが、実は何だかムクンで来たやうです。顔の色や感じがどうも不健康で、眼のまわりなどはたしかにムクンでゐます。この頃左の眼がよくない。そこへ不精ひげぼう／＼で我乍ら汚らしい。今日は芦野氏に会はねばならないので、一週間近くほつてあつたひげをそりました。食事が終つた所へ白田君が来て、「今日は金チヤン(芦野氏の別称)が早くあらはれると云ふから、モンペ、ジャンパーちやいかんかな」と云つてゐる所へ、こつ／＼扉をノックして当の金チヤンがは入つて来ました。ちよつとどぎもをぬかれてあはてて立ち上り、「まだ平服をかへてなくて」と弁解にならん弁解を云ひ乍ら、洋服ダンスをひらいてモンペの上にズボンをうがちなどし始めると、「さうか、まだ何か……」と彼も要領のえんことを云ひつつ、おさまりがつかないので、「ところで昨日電話で頼んでおいたもの出来てゐますか」「実は三人で意見は決定しましたが、之から書かうと思つてゐるところで」「ああさうですか、ぢやお昼までに作つて置いて下さい」、かくの如くまづ不首尾です。彼もいはば人の私室へふみ込んだやうな具合の悪さを若干もてあましてゐるやうに見えたので、すでにネクタイもしめ終つた僕は、折柄本棚を見てゐる彼に話題を

てい供しました。

「レッキイは調査会で買つてあつたのですが、カードの整理が出来てゐなかつたので、急いで整理してもらつて今読み出した所です」「そりやよかつたですな。これですか。なるほど。八冊だね。これだけで一生仕事ですな」「レッキイは廿台から道徳史なんか書いてゐますが、それは油ののり切つた四十台の労作です」「菊池さんも四十頃にはアメリカ史で之くらのもの書けるだらう」「さうなりたいものです。今の調子を之から七年持続すれば、書けると思ひますが」「さ

うだね。併しイギリス人がイギリス史を書くのと、日本にゐてアメリカ史を書くのでは、大分条件がちがふわけだね」「資料の点などでは決定的に不利ですが、歴史の洞察とか批判とかになれば出来ないわけではありません」「それにしてもずい分アメリカ史の本も集まつたね」「何とかかとか云ひ乍ら二、三百冊集めました。中には他にも少い立派なものもあります」「個人でこれくらい集めてゐるのはちよつとないでせうな、これはあなたが買ったのかね」「さうです、本郷でみつめました。中々面白い本です」等々ですつかり始めの不首尾もどこかへ行つて了ひました。

「それはさうと君はここへねるんですか」「この所へうなぎの寐床のやうに長細くふとんをしいて」「飯は自分で作る?」「朝食分作つて了ひます、コンロですから」「どこで火を起すの?」「露台で」「ふとんを入れる所はあるんですか」「そのふすまの向ふの二畳に押入れがあるんです」と云ふ風な問答になつて、間もなく退散しました。あとで白田君が、「芦野さんてかた、ずい分紳士的なもの云ひかたをするんですね」「そりや僕が紳士だからだよ。それにしても若干おどろいたね」ですみました。芦野氏が半ば私室になつてから、この部屋へあらはれたのは始めてだつたのです。

戦争終結史のプランを作り、N君とまたしても一合戦せねばならなかつた。戦争目的を検討して、政治的攻撃側（侵略側）と政治的防禦側（防衛側）とを判定する必要があると書いたのに対して、N君は、その政治的攻撃防禦の概念がわからないと云ふのです。当然出て来る反対論だと思つたので、N君の歴史観の全面的論難を展開しました。彼の歴史主義、個別主義、云ひかへれば歴史の進歩性の否認、普遍的歴史の否定、遂には歴史的法則の否定、歴史批判、価値判断の否定、之等すべてを徹底的に論断し、「歴史批判、歴史的价值判断、歴史の洞察を否定すると云ふことは、君の歴史理解力の貧弱さを告白することだし、プロシヤの絶対王制をフランス革命と比べて、どちらが進歩的だか簡単に云へないなんて云つて結局プロシヤの反動的制度を弁護しようなんてするのは、君の歴史家的態度の偽善性の表明だ。君の理論で行けば、歴史には普遍的法則はない、歴史は個別的で従つて遅れてゐるとか進んでゐるとかはない、歴史は科学ぢやない、宗教だと云ふ風な、歴史の学問性の否定にまで到達する。君はフランス革命当時のプロシヤ絶対王政を、プロシヤにとつて合理的なもので、当時のプロシヤの進歩的連中を先走つたものだなどと云ふが、すでにその進歩的な連中が出てゐること自体が、プロシヤ絶対王政の不合理化したことの証拠ぢやないか。そして進歩的連中が失敗したのは、彼等が時期を知らなかつたとか、彼等がさき走つたからと云ふよりも、むしろ彼等の正しい努力を抑圧した不合理な制度たる絶対王制の反歴史性の強さのせいだ。だのに君は人間の正当な歴史的努力たる近代化、進歩、改革の苦闘を評価するのではなくて、さう云ふものを抑圧し阻害した不合理な絶対王制を、当時としては合理的だつたんだと云つて弁

護するなんて、歴史家として恥づべきではないか」。実はもつと強い言葉で攻撃し、更に「戦争史をやらうと云ふのに攻撃と防禦、政治と戦略の区別もつかないなんて話にならん。戦争目的の判断に攻撃と防禦との区別を判定することは、近世国民戦争の研究の始つて以来の常識だ。クラウゼヴィッツでもジョミニでも読んでみたまへ。試みに歴史の素人にきいてみようぢやないか。堀江君、どうだね、戦争を判断するのに、どちらが政治的に攻撃的かどちらが防禦的かを判断することは第一になさねばならんし、ふつうさうしてゐるだらう、そうぢやないかね」「そりやさうだね、政治的目的が正当か否かと云ふことは、その戦争が防禦的か侵略的かと云ふことだし、そりや菊池さんの云ふ通りだね」「さうだらう、戦争をやる国の凡ゆる努力は、自分の国が攻撃するのでなく、攻撃されたから正当防衛をするんだと云ふことの宣伝にあるぢやないか。戦略的に攻撃する場合でも、政治的に防禦戦争だと主張するだらう。防禦戦争とは国民戦争であり民衆戦争であり解放戦争であり、歴史的に進歩的戦争だ、攻撃戦争とは封建戦争、絶対主義戦争、帝国主義戦争であり、歴史的に反動的戦争だ。この歴史的判定をやらずに戦争の性質の規定も、その本質の究明も出来はせん」。

倉橋君は僕の意見に賛成しながら、N君と妥協しようとするので、僕はゆづらず、結局原案を芦野氏に出して、芦野氏の意見をきかうと云ふことになつた。傍聴者の八木君、堀江君（二人とも英研）も、僕等の討論を面白がつてきいてゐたので、時々二人をまきこんでは、徹底的にN君の歴史観をこきおろして了りました。あとで芦野氏もむろん僕のプランを全的に承認して、「初めからかう云ふ風な規定をつくればよかつたね」と中々上機嫌でしたので、N君もとりつくしまなかつたのです。

N君はあとで「僕も歴史の法則性を全的に否定するのではないが」とか、その他さきに論争の途中で云つた自分の見解をあいまいにして弁解したが、彼のなまぬるい歴史観が結局歴史批判でなく、甘い観念的な歴史解釈でしかない本質は、既に八木君や堀江君にもうすくわかつてゐたことで、それを僕が徹底的に叩いて了つたのです。もつともつとこれが続けることになるでせう。N君は僕との論争を避けてゐることは大分前からだが、こちらは決して避けない。併し僕も彼と云ひあつてゐる間にドイツ史学の反動性がつきりして来て、有益でした。

だが昨日のT君とのケンカと思ひあはせて、僕が此の頃殺伐な気持になつてゐるのは事実のやうです。だから逆も強すぎる言葉がとび出して、相手を全くペシヤンコにしてさふ。歴史家の中堅を以て自負してゐるN君を、「君のやうなのは歴史家ぢやない」とか「君の歴史学なんて学問ぢやない」とか、人の前で論断するのですから少し強すぎたかもしれぬ。昨日も感じたやうに、今日も少しやりすぎたと思つて、「どうも僕はこの頃ケンカしすぎる。余りよくない傾向



だから、今後抑制しよう」ともらしたところ、八木君と堀江君とは「もつと論争する方がいい。それにきいてゐて迎も面白いよ」と云ふことでした。

だが討論の相手としてはN君やT君はいささか弱すぎるのです。N君は自ら京都の歴史家の中では異端者で、鈴木成高（ランケの翻訳者）その他の歴史哲学主義はもつと徹底してゐて、「僕は論争なら徹底的にやる、鈴木さんなんか先輩だけれど、論争なら先輩でも何でもどん／＼容謝なしにやった」といつも傲慢してゐるくせに、僕と論争するとまるでだらしない。一体京都ではどんな論争をやつたのかと思ふ。八木君も「Nさんは自分で異端者だなんて云つてゐるが、本当は相手にされなかつたのぢやないかな、そんなこと云つちや悪いやうだが、Nさんのやうな学問の個性の弱いのは異端になり得ませんな」と云つてゐます。だがまあ、之からは、とるに足らん相手と余りむきになつて論争したりするとはつしませう。

併しN君が愛読してゐる会津八一（早稲田の先生）なんて人のものも見てみたが、嫌悪を感じた。奈良朝の古美術をいろ／＼うたつてゐるのだが、その仏像の歴史的意味、そこに歪められて反映してゐる当時の人民生活の意態などに寸毫の理解も洞察もなく、ひとりよがりな、氣どりますました「鑑賞」をやつてゐる。之はN君の態度でもあり、多くの日本の文人の態度でもある。何故彼等は、さう云ふ仏像がいかなる歴史的現実の中から、いかなる形で出来たのか、その仏像の作られた時、日本の歴史的民衆はいかなる生活の中にゐたのか、さう云ふことを理解することこそが、芸術（美術）としての仏像を本当に理解することだと思ひつかないものでせうか。彼等氣どりやの日本芸術鑑賞家達、アララギ派の歌人達をも含めての仏像ファンや万葉ファンの歴史的生活への無智無関心、しかもさう云ふ無智を全然反省せずに、自分達こそ唯一つの日本芸術の理解者だと云ふ風な氣どつた様子でゐること、かう云ふことに憎悪を感じます。それはあの「プランテーション」のクロツパーの生活を書いてゐた時、プランターやアメリカの偽善者達に感じた憎悪と同じやうなものです。それはまたN君の「学問」の低俗さ、T君の処世術の卑陋さ等への憎悪とも相通するものです。これはあなたがあるない為に、ついけづり立てられた僕の神経の八つ当りにすぎないのかしら。

十月二十二日（日）晴。

本を有難う。お手数かけます。今度は同じ天文講座の第一冊目「天球と星座」をついでにお願ひします。朝早く星を見るのは実にいいです。

今朝は知らない人がたづねて来たので、何だらうと思ふと、宮川実氏（長谷部さん達と一緒に立教のアメ研を作らうとして、その後ひつかかり、少し前に出て来た人、元和歌山高商の先生）の弟子で、和歌山高商から商大へ来て、今年卒業し、宮川さんの紹介で今度調査会へ入った人だったのです。この辺に下宿があつたら紹介してくれと云ひました。何でも昨日宮川さんの所へ行つたら、鶴田君が来てゐて、僕の話が出て、急に僕に下宿をさがしてもらはうと云ふ氣になつて、今朝早速来たのだと云ひました。

廿三、四才のいかにも若さうな青年で、眼が片方全然見えない為に第二國民兵ださうですが、和歌山の人で、ひろちやんとことから三十分ばかり南の御坊の人なんです。おひるまで下でしやべつて帰つて行きました。何かあればごちさうしてあげてもよかつたが、今日は全く何もなくて、かゆのやうなごはんとダシコンブを醬油で煮たものだけのごはんなので、帰らせました。ふりかけもなくなつたので、今日は三食ともめしとコンブなのです。その中時々遊びに来るでせう。

今夜は久しぶりに早川君を訪ねます。ずい分さむくなつて、ジャンパーだけでは出られないでせう。モンペ下は中々よろしい。どうもありがたう。本当にいろく面仆つらなことばかりさせてすまないと思ひます。

今日も眼の調子がよくなって不快です。こごずつと眼は不快で、これのせいもあるものでせう、よくケンカするのは。何が足りないのかも知れません。

明日、カハセを送ります。では。

今日はあなたの手紙が来なかつた。昨日はまるで無表情なハガキ一葉。だが僕のこの長々しい手紙も全くケンカの武勇伝だけで何の味もそつてもなく、あなたにとつて、このあなたのハガキ一葉にもおとるかも知れませぬ。

### 幸子から謙一あて（一九四四年一〇月二二日の記、二二日の消印）

十月廿一日

暖い晴れた日、東京もこんなでせう。

毎日蕪ばかり食べておるでとのこと、本当にお氣の毒ね。あの変てこな巴里の洋服たん筈の話の男の様に、蕪の汁を血液の代りに注射すると、—どうなるんだつたかしら。あの怪奇オカルトな男の様に蕪を食べすぎて、血液に変化が起つて、怪し



いふるまひなぞ夢々なさらぬ様に。今日来たやみやの爺さんにうづら豆を三斤たのみました。一斤四五円に当りますが、廿五日頃には持つて来てくれる筈ですから、上京の時持つてゆきませう。白米も一斤位、持つてゆかうと思ひますから、旨しい御飯を作れるでせう。

ルーズベルトの説明有難う。大変よく解りました。彼はウエルソンより下だと思つて居りました。ウエルソンは本来的には政治家ではなかつたのでせうね。ルーズベルトの立場、其の動揺、其の政治的位置、其のゼスチュアの影響の結果等、よく解りました。

あなたの叙述方法の考察についての御考へ、面白く思ひました。たしかにあなたの仰言る通り、最も印象的な入口から本体へ直通する方法は最も適切で、それが表現形式の第一であらねばなりません。でもそれは本当にむづかしい事ですね。凡ての自分の思想を芸術に、言語に表現しようとする人が、その方法を得ようと慾し乍ら、中々把めない事なのでせう。バルザックの長い文章や、一見、本題と関係なささうな饒舌があちらこちらにばらまかれてゐて、一後になつて思ひ出して見ると、どれもこれもが本題にはいつて来るための是非とも必要なものであつたと思へるし、其のよけいもの様に見える一ツ一ツのエピソード、長お喋りが知らずく読者□本題への興味を集中させる役目を果してゐると思ひます。だからあなたが、本題にはいるまでにぐずくする、と云つて否定する様な云ひ方は、そのまゝでは正しくないと思へる。結局あなたの云ふぐずくは、かへつて本題への印象と云ふか関心を、強める事になつてゐると思へるのです。

一見して直ちに内容を理解しなくてはならない美術品と、長い思考の堆積の結果生れて来る問題をと取り扱ふ論文などとは、表現形式を大ざっぱに一語にする事は変ではないかと思ひますが。もつとも羽仁さんの歴史観を扱つた小論文をよんだ時は、あの人の大たんふ敵に見える短い文章、たつた一つの例をひいての断乎たる断言は、一見こんなに思ひ切つて云つてもよいものかしらんと云ふ風に思へたが、後から段々あれ程適切な個別の例はなかつたのだと考へられて来た事があります。併し、あの文章は、どちらかと云へば説得の形のものであつたのですから、あなたの歴史叙述の形式とは、又異つたものであつてよいのだとも考へますが。羽仁さんも又、ミケランゼロの時ほどいい様に見え、ぐずく同じ様な事を云つてゐる様に見え乍ら、結局云はんとするところ、本題を実に強い力で読者の頭へ刻印する方法を取つてゐたと思ふ。

私があまりゆつくりしてゐすぎた事から、あなたに本当に嫌な思ひをかけた事、自己嫌悪を感じさせた事は、返すく

もわるい事をしました。前にも度々書いたでせうが、あなたの文章は、私は一寸も悪文だと思つた事はありません。唯、内容がぬきさしならぬもので濃厚なので、他の論文の様に言葉のむづかしさはあつても、大体スラ／＼よめると云ふわけにはゆかない、何時も精神の緊張を必要とするのです。それでゆつたりした時間のない時、私の様な論理的でない頭のもの、中々すゝめないのです。

あなたの警備召集と応召とは関係ないのね。警備召集丈でお召がなければいいのに。

私の手紙、毎日来ない／＼とあなたは不平を仰言る。私の方がずっと余計書いてるのに。でもそんな事で私はあなたに文句云はない。量は少くとも一番せんじの愛情のこもつたものならうれしいから。あなたは私より机にゐる時間があるでせう。あなたの関心が他の人へ濃厚に注がれて、残りがおこぼれで来る様なのは嫌なの。こんな風に思ふ時、身体も恢復したし、上京して仕事に着かうと本気に考へる時もあるわ。でもあなたを其の快適な環境から、まき添に引っぱり出さうと云ふ訳ではありませんから、ヤキモキ心配なさらぬ様。私が一とすじに、あなたにばかり集中してゐるのに、あなたの方でさうでないなら、やりきれません。私が上京するから、ゆきちがひになるとお考へで、あなたの手紙をさぼらないでね。あれはあなたの日記なんですから、確実に書いて確実に出して下さらなくつちや。

廿五日か六日ころ、前便のとをり上京致します。いいものを出来る丈かき集めようと思ひますが、経堂へは一応電話で御都合をきいてから、お訪ねしませう(多分土曜日位に)。直接そちらへゆきたいのは本当ですが、あなたの困る事はわかつてますから(殊に恐ろしい小使ひのお婆アさんがゐては)。

ではさようなら。  
謙一様

### 謙一から幸子あて(一九四四年一〇月二三日の記)

十月二十三日(月)曇、晴

御手紙No.15、16拝受。

先づ15。あなたにそんな苦しみをあたへたことを御わびします。だが御心配は絶対に御無用です。星は九月の十日頃の或る美しい夜以来しきりに親しみ、星の本を出しては毎夜読んだりしてゐるので、白田君の来始めたのは廿五、六日頃

であり、あなたの云ふやうな意味は全くありません。銀座を歩いたのは、前の手紙に書いたやうに、天文館へつれて行った帰り、足立君の賤別の品を選ぶのについて来てもらっただけだし、星を見るために二人切りになったことなどまるでありません。伊藤君が来ると云つたので、それなら丁度いいと思つて、その日に星を教へたのも、その間の誤解の入らないやうに心をくばつたのです。いづれにせよ僕は貴女との情緒を常に慾求はしてゐるが、他の異性によつてその代用的なものを求めようとは思ひません。さう云ふものとは別に、僕は之までどんな所にもゐても、存分に自分の意見を話し得る相手が必要であつて、西大久保にゐた頃は貴女の外にSとかNとかの友人（帝大生）、新聞社時代の島谷、斎藤、その後の或時は森ちゃん、或る時はみつちゃん、或る時はいねちゃん、また伊藤君、吉武君、村瀬君、調査会では竹中君、この間中は利ちゃん、ひろちゃん等々と同じやうな意味で、最近のこの分室では八木君と白田君とが存在するのです。もう僕も廿才台ではなく、相手が男だからとか女だからとかで、別の態度や囚はれた態度をとらざるを得ないやうな年頃ではありません。いねちゃんやみつちゃんに対すると同じやうな、いはば「兄」の態度から一步だつて出てゐないし、気持もさうです。彼女も実兄が二、三人あつて、異性との友達づきあひには、いい意味で馴れてゐるし、決してあなたを心配させるやうな型の人ではない。「魅せられた魂」のジュールジュ（ジュリアンの一人娘）のやうな、気持の自由な開放的な、そして分別もある子です。

だが僕の不用意な「ひけらかす」やうな書き方は、忙しくて満たされない気持でゐるあなたを苦しめた点で本当によくなかつた。あれは丁度、あなたが浪合ひにピクニックして、その楽しかつた昂奮を僕の状態に考慮なしに表出するやうに、僕も一種のピクニックの楽しさを伝へたのです。また白田君を普通の職業上の関係以上の友人にすることは、僕が応召とかもう一つの「あること」とかで生活の急変を余儀なくされた時に、後始末を頼むために必要なことだつたのです。彼女はまた熱を出したので、休ませようかと思つてゐる所ですが、今後僕のアシスタントとして或る程度の交通を続けねばならないが、あなたの方で決して心配したりしないでほしいと思ひます。

ピアノも星も僕自身の内的慾求であつて他のものでない。それへ他の人がついて来てても、僕はむろん喜んで迎へ入れるが、どこまでも僕自身の内的慾求が第一で、その点でもあなたは心配する必要がない。それに第一、僕はいつだつてあなたと共にゐるのです。僕の話にはいつでもあなたが居り、僕の机にはいつでもあなたの手紙があり、或ひはあなたへの手紙の書きかけがあり、僕はどこでも誰に対しても、この七、八年来と同様に、いやそれ以上に、複数で存在してゐるのです。そのことは恐らく貴女が想像するよりはるかに徹頭徹尾さうなのです。

No. 16。「プランテイション」をそんなによく読んでくれたことは嬉しかった。実はあなたの手紙で、第何章の第何節を読んでもあるだけでも、僕は原稿を出して、ははん、この辺だな、それぢやこの所を読むと幸子はどう思ふだらう、僕がここへ書きこんだ「いきどほり」を読みとつてもらへるかしたら、僕の感情と僕の意図とをすっかり読んでくれているかしら、などと考へるのです。それなのにこ暫く、お手紙には何等具体的にどこを讀んでると云ふことが書いてなかつたので、ぢややつぱり文章が悪文すぎたり、独り合点すぎたり、または数字がわづらはしすぎて、読めなくなつたのかな、読みたくなかつたか、読むだけの魅力を感じなくなつたのか、と失望してゐたのです。

だが今度は、そんなに忙しいのに無理に義務的に夜半まで読ませて、身体をこはされはしないかと云ふ新しい心配が出來ました。讀んでくれることに安心したから、もうせきたてたり、いろ／＼無理な註文はしません。そんなに一々ていねいにノートをとらなくてもいいから、もう少し楽な気持ちで読んで下さい。

あなたのやうな読者を十人ももてたら、それだけでも充分嬉しいことでせう。だが僕は泥沼のやうに難渋な緒論や、冗慢で数字だらけの第一章や第二章第一、第二節が、多くの読者を、本論にまで行くことを妨げて了ふのではないかと心配してゐます。今となつてはすっかり書きなほしたいと思ふ気持ちがぬけません。それにいろんな事情で、そこに書いてあることは、書きたかつたこと、また書き得たことの大きい部分を省略してゐるのです。そのことはシャベルか別の形で何かに書く外ない。

あなたの上京は耳よりです。いねちゃんとかへでも泊つて、買ひ物は僕も一緒に行つてあげるから、すぐ経堂へ来なさい。打ちあはせて僕が出て行つてもいい。僕の弟子(?)にも紹介させよう。森井さんも此の頃身体が悪くて出たり休んだりしてゐるさうだが、おつきあひするのいいと思ひます。この分室の外の連中は紹介するに足りないけれど、白田君や古田君はいい。

あなたの帰信に、一緒に行けるやうにさせよう。切符を買ふのが大変だが、こちらで切符を買へるやうな口実を用意して来て下さい。

この手紙は早く出させよう。今夜中に投函すれば、明後日までにつくでせう。では待つてゐます。

謙一

(末尾に記された経堂駅から分室までの道順図は省略―編者注)

## 幸子から謙一あて（一九四四年一〇月二一、二三、二四日の記）

十月廿一日

サフランの花が咲きました。春一番早く咲く花なのですが、まちがつてもう咲いてしまったのでせう。手紙に入れて差上げますが、届くころはしぼんでしまつてゐるでせうね。六枚の花べんは紫の濃淡、緋いろとうこんの<sup>①</sup>並です。今日はヘルニアの手術。あとは勤勞奉仕の人たちばかり、稲を茹らず、手や足を茹つてゾロ／＼やつて来ます。

此のごろ睡眠不足のためか、熱（少しの）がつづいて居りますので、風の中へ一寸出るとブル／＼寒気がして来ます。風の中で落葉を焼きました。山の美しいこと一でも夕方があまりあつけないので、ろく／＼散歩も出来ません。

今日は漬菜を三貫位、河へはいつて洗ひました。こちらは今、なつぽとおさつ丈です。これから夕方掃除にかかります。短い手紙ですけど、又夜に書きますから。

今日のヘルニア手術には喜悲劇がお添物につきました。被手術者は二十八才の自動車運転手でした。彼が腰椎注射を終り、手術すべき場所の石けん洗ひ、かみそりをすまし、ヨードチンキをぬつて（これは相当広範囲にぬります）、その上をアルコホール消毒（衣類につつまれてぬぬ場所は凡て）、正に其の上にハンケチをかけ様としてゐるところへお婆アさんがはいつて来て、一目みるなり、アツと云つて立ちすくみましたが、手術は彼女にとんちやくなく何時も通りに進行しました。すんで病室へ運んだあとで、お婆アさんが再びやつて来て、

「先生一寸話がある。あれは私のむこであります、驚いたね。全身傷だらけで、あの肌のいろ、一むこに来て一ヶ月にならぬうちに脱腸をやるとは？ あれはハエ、もう追ひ出してしまつた方がよからずなも」「肌のいろと云つて、あれはヨードチンキをぬつてあるから、カレー粉いろに見えるんだ。脱腸は何時だつて、まが悪ければ起きるよ。追ひ出すなんて事までは、医者のお口を入れるところぢやないね」「ハエ、それでも一ヶ月になるかならん中に、だつ腸なんかしてズ太い男だ。それにあの傷はどうだ。着物までぬがせて調べたわけぢやなかつたから一あきれたもんだ。追ひ出さうかしらん？」「傷は一仕事が運転手なら荒いから、よくある事なんだらう。まあ僕に云ふより嫁さんと相談した方がよからう」「嫁はぞつこんほれとるで話にやならんも」「それでは追ひ出す事はないだらう」。

夜は急に冷える様になりました。下では客まと茶のまに炬燵をいれました。私はほとんどいまの処は、炬たつにははいりません。炬燵にはいれる時間は、二階にゐますから。

お母さんは今夜帰る筈でしたが、もう十時すぎたのに帰らないところを見ると、もう一と晩泊るのでせう。

今日でよう／＼第二章。第五節の二まで終りました（ノオトとり）。ねる前までに六まで一応よんで、明日の暇を見てノオトをとります。

(二)は書きにくいところなんでせうね。今までのうちでは、すこしゴタついてゐる様に思ひます。ノオトはどうもうまくとりにくかつた。それで、ノオトの方と本文とをもう一度よみくらべるか、書きなをしをした方がよいかとも思つてゐます。ノオトの方丈、今かんたんにみましたら、二の分だけで十枚近くありますが、よみ返したらさう変なとり方でもなくて、史的素描としてはよくまとまつてゐるし、再建の挫折に至る道もよくわかつたようです。書きにくいところだせうね（このための枚数は短いんだから）。

十月廿三日

昨夜は十二時までかかつて第五節全部よみました。段々よみ易くなつて来ます。

今日は晴れてはゐますが風が激しい。おひるに近所の娘さんの病氣見まひに行つて来ました。もう恢復のみこみのない肺・腸結核の娘です。姉妹八人、末は二才、一番上は廿一才で、病人は20才です。大阪の工場へ行つてゐて、此の春から病氣で帰つてゐて、九月始めまではブラ／＼してゐたのに、寒さが来ると同時にばつたり起きる事も出来ず、医者を呼んだのはそれからで、関さんと云ふ呼吸器専門医が一目みて、はき出す様に「もう一ヶ月位はもつたらう」と云つたと、親は怒つてゐましたが、それまで子供の守をしたり、お勝手させてゐたんだから、医者にさう云はれても当然です。母親が時々家に来る人で凄いいタンカを切る人です。此の間も来てお父さんに「何時になつたら片づくでせう」ときいてゐました。子沢山と貧窮に責められては、娘の死を早く願ふのはむりもないでせうが、見て嫌なものです。役に立たない者は、手数をかける者は、邪魔者になる骨にされるんですもの。病氣になる前は家のために働いてゐたんですのに。あんまり気の毒だから、おひるにフライドエグやポテトをつぶしてピンクにして甘くして茶きんしぼりにしたのや、松茸の煮たのをふたものにきれいに盛りつけて持つてゆきました。病人は板敷の三丈位の室にねてゐました。顔から目があふれる程に見え、手の細いことと云つたら――。





見まつて貰ったのは始めてだと云つて、忽ち目から涙があふれ出して、気の毒で、あまり何も云はずに帰りました。どうせ長くないとしても、これからチヨイ／＼行つてみてあげ様と思ひました。では今日はこれでさようなら。

十月廿三日夜

手紙を出さうと思つてゐる間に、午後から急に気分わるく、目の中が変で、熱を計つたら七度七分になつてゐました。お母さんは石橋さんを連れて帰つて来、家中ドタ／＼忙しくなりました。病院も午後から暇なので、一階でnoteにかからふとしましたが、今日は努力しても駄目。頭がぼー／＼として何も書けません。今まで下で皆とお茶をのみ乍ら話をきいてゐました。此の分ではとても駄目ですから、今夜はやめてすぐねようと思ひます。せつかく良くなつたと思つたけど、矢張り駄目ね。何も彼も味気なくなつて、死んでしまひ度い位に思はれて来ました。どうしたのかしら。丈夫になつてあなたとの健康な生活にはいれるのぞみはない様に思へて来ました。いつそ私なんか早く病気にでもなつて、片つた方がましかも知れない。誰にも親切になれぬし、何時まで立つても自分中心にしか考へる事の出来ないし、あなたの仕事は理解出来ないし、仕事の手伝ひは出来ないし、健康も持たないし、若さもない。凡てがないのですから。私の出来る事は、あなたの邪魔だけです。あなたの凡ゆる生活へのシヨウ害である丈の存在なんて、早く消えてしまつた方が、一どんなにか誰のためにもなるでせう。

こんな事を暫く考へました。嫌らしいセンチでせうね。今晚はぐつすりねむつて、又明日から元氣を出して見習ひ看護婦をつとませう。矢張り手術は私は嫌ですわ。好きになれません。何時も心理的にティゴウを感じます。ではお休みなさい。

幸子

十月廿四日

早苗ちゃんが自分の机の前で絵の本を見てゐるところです。私の部屋に彼女のために低い小さいテーブルを作りました。ここで「勉強」します。勉強はぬり絵の時もあるし、千代紙もあるし、絵を見る時もあります。

## 謙一から幸子あて（一九四四年一月八日の記）

十一月八日（水）曇、雨

あれこれとこの二週間余りのあなたとの生活を甘い寂寥の中で想ひ辿り、あなたの心尽しの数々をかみしめ、それだにあなたの気持や欲求へ充分深切には応じ切らなかつた心うらみ、少くとも僕のあなたへの感情のありつたけを、あなたにわからせ得なかつたかもしれない心うらみに淡い悔いを感じつつ、飯田線の二時間半はさして長くもありませんでした。すぐ坐つておしまひまで余り混まず、辰野の三つ四つ手前あたりから、他の旅客の立つのにつられて、乗り換へ競争へスリリングな心がまへをやつてゐたのですが、十数人にしか先んじられずに、息せき切つて丁度ついたばかりの汽車へかけ込んだら、二等車は一向混んでゐなくて、すぐ坐席がとれたのはあつけないくらいでした。上諏訪までは「ラモーの甥」を読んだり、三等から居直りの二人の学生が、車掌に埒致されるのを物見高くながめたりしましたが、間もなく眠つて了ひました。時々首がだるくて寐なほしましたが、途中にらさきかどこかではつきり眼をさました以外は殆ど眠り通して、次に眼がさめるともう八王子でした。あと一時間ばかりは「ラモーの甥」と一緒に、だんくゝあかるとくる武さし野を時々チラ／＼窓の外に見やりつつ、六時少し前に新宿着。六時発の小田急をとらへて、六時半には経堂の家へ。

冬コートでよかつたと思ふほど、汽車の中も東京の夜明けの町も冷えました。着くと小使さんにおみやげの天竜ヤキを進呈して、留守中の無事について長々と、おみやげに対するお礼の感情の表出としての長広舌報告を受け、寒いので何はともあれ石炭で火を起し、お茶を湧かして、待望のおセキハンにぎりめし（三個）と牛肉若干との御飯をたべました。少し疲れて一眠りしたかつたが、時間もないのでカンタンな掃除だけですませると、白田君と竹中君とが相ついであらはれました。結局オバヤシヤキの白い茶碗はこの二人に進呈しました。

昨日の昼にも空襲警報が出て、この二階でみんな見物したのださうです。やつぱり最初は、キレイな飛行機がユウ／＼とんでるなと思つてゐると、尾翼のあたりにパッパッと白いけむりが出るので、やつと敵機と気がついて一同あれよ／＼と見物してゐる中に、相当高い所を東から西へまつすぐこの家の上を通過し、間もなくまた西から東へ帰つて行つたさうです。その間我が軍の飛行機は一機、追ひかけるのでもなく、敵機のとんだ跡を斜めに横切つたきりだつたさう

です。

僕の留守中は殆ど連日空襲があつたわけで、竹中君は丁度この一日から出始めたが、僕も八木君もゐないで詰らながつただけでなく、日曜日まで警報に駆り出されたのだと云つてばやいてゐました。今日は大統領選挙だから来るにちがひないと、谷川君などは警報も何も出てゐないのに、ゲートルと鉄カブトとのいで立ちで、早やばやと出勤しました。西井君と古田君、八木君はまだ帰京してゐませんでした。

余り罪にならぬ程度に、肉や鯉やつぐみを食べて話を、みんなの希望に従つて話しました。みんなまるでリウチバの人々のやうに、他の人がうまいものをたべた話をきいて、せめて味覚幻想をなぐさめてゐるのです。こちらが軽くすませようと思つても、みんなが根ほり歯ほりきくので、つい話してひます。尤も西井君のやうに人がうまいものを食べた話をきくと、腹を立てるほどうらやましがると云ふ風な小児病患者は、ゐないので助かります。

午前中は昨日着いた本棚や本を運んだり整理したりの勤勞奉仕ですぎました。おひる前に電話がかかり、何事ならんと出てみると、鉄工聯の佐々木部長からの電話で、始めはきき馴れない声で「テツコウレンのササキデス」と云ふのが中々合点いかなかつた。要するに、上海から帰つてあなたのことを娘からきき、大変責任を感じて、とりあへず僕に電話して来たのださうです。いろく娘のことについてお礼を云つたり、責任を感じると云ふことをくり返してゐました。まだ床についてゐられるのですか、と云ふので、もう大分いいことはいいのですが、と言葉をにこらせて、彼の自ら感じると云ふ責任感にいくらか重みをつけてやりました。とにかく大変いんぎんに、あなたへよろしくと云つてゐました。

昼食には竹中君が僕の所へ一緒に食べに来たので、僕のオセキハンのにぎりめしを彼の麦飯にぎりめしと一つだけかへてやり、牛肉も少し皿へもりわけて食べせましたら、彼程の美食の徒も、何とも云へずうまがつて感謝してゐました。僕はオセキハンにぎりを二つ、夕食へ残しました。夕食はこれと牛肉とパセリとおいもとですませませう。

午後八木君も帰京して、おみやげのフユウ柿をみんなで僕の部屋で食べながら、彼の「アホウの天国」の話に、半口あいてききとれました。二、三日中に配給酒をもつて彼の家を訪れる約束をしました。

夕方から雨になつて、夕食を早目にすませると、寒さと雨とガランとした家のしづかさにと一しは寂寥を感じつつ、漸くあなたへのペンをとつてゐるのです。あなたの整理してくれたたままのお勝手や二畳の間の模様、さびしいなつかしさを覚えて、物の位置をみだすにしのびませぬ。それについてもあなたに余計な心憂ひを起させた僕の心なさをくれ

くもおわびします。かう云ふことは、口で何と云つてもすつかり晴れるものでないから、この連日のB29の人もなげな来訪に、帝都空襲の危険の一層現実化した今となつては、ただ一日も早く信州へ、あなたの所へ、すつかり生活をうつすてだてを進めることを誓ふだけです。今日はややくたびれてゐるから、明日から仕事に大馬力をかけませう。

僕のプランティションを丁ねいによんでくれたことを、僕がどんなに嬉しく思つてゐるか。僕にはあなたが難波や多忙の中で一生けん命に読んでくれて、僕の生活へ熱心に共感してくれたことに、あなたの僕に対する愛情の最大の証左を得たのです。それでこそ僕は、これからの仕事に全力をうちこめます。最適の伴侶的理解者を得た喜びと、最愛の妻を改めて自分の腕と胸との中に確認した喜びとがどんなに大きいか。あなたの物質的心尽しも嬉しかったが、精神的心尽しの大きさは更にはるかでした。だがそれと共に、僕があなたにどんなに貪慾に多くを求め、あなたを疲らせてゐるかを思つて、自分の専制ぶりを心痛に感じます。それだけに一層、仕事に責任を感じます。

他方、あなたにかけた心配について、充分上手に正確に説得的に釈明し、あなたを充分安心させ切らなかつたことを悔いてゐます。実際あつた問題の釈明と云ふものは僕には難物です。どんな風に説明しても、ああ云ふことは、一旦疑ひをもつた心に充分説明し切ることはむづかしいが、殊に僕は説明が下手で、自分ながらどう云ふ風にして解いていいかわからないのです。ただどうか僕を信じてくれと云ひ、早く今の不自然な生活を切り上げ、今後とも充分心することをかかふより外ないのです。

留守中の配給物はタバコと酒とでした。タバコ六個の中二個は、小使さんの懇望によつて今度だけ進呈し、四個は二、三日中に便箋と一緒に送りませう。砂糖はまだ買へないのでさうです。

では今夜は胸にひびく咳が出るし、寒いし、つかれてゐるので、また味もそつけない手紙だと云はれるかもしれないが、之だけにして寐ませう。明朝出します。

同封の写真は、八木君が田舎の知人の所で僕の猫好きの話をしたため、その家の人も猫好きで、「さう云ふ人ならきつとこの猫の可愛さがわかってくれるにちがひないから進呈してくれ」と云つて、この写真を託されたのださうです。なるほど可愛いきれいな猫です。尤も僕の好きと云ふのは、キレイだからとか外見がかはいいからとか云ふのではなく、やはりもう少し内容的な意味があるのだが、八木君は「猫の話を見せておけば半日でも一日でもするほどの愛猫家だ」なんて云つたらしいのです。それについてもプシのやつ、どうしたものでせうね。

## 謙一から幸子あて（一九四四年一月九〜一〇日の記）

十一月九日（木）晴

今日は防空壕にたまつた水のかい出しに殆ど一日つぶされました。いつかの凄<sup>①</sup>い雨風の夜二尺近くたまつてしまつたのが、一ヶ月ごしに引きも蒸発しもせず、今に到つてゐるのです。どうやら雨が流れこむよりも、地下の湧水のせいらしい。水がきれいだし、一度二、三寸くみ出したのに、すぐまた元の程度になつたのだから。四つのバケツで男六人のバケツリレー、午前中二時間近くやつて、五、六寸減水しました。何しろ六畳敷ぐらいの広さですから大変です。僕は一番骨の折れる汲みがかりをやつたので、すつかりつかれました。西井君も古田君もまだ帰らず、竹中君も今日は本室行きです。「暁天動員なんかするより、その労働力をこんな所へ使ふべきだね」。

そんなわけで今日はチツキをとりに行くのはやめにしました。シブウチワとタワシとはすぐにも要るのですが、明日の午後でもとりに行きませう。

今度の読書新聞にのつた僕の本の広告は、「…米國資本主義の基底的本質を南部プランテーションの史的經濟学的執拗な分析によつて明かにせる劃期的労作」と云ふ説明つきです。誰が書いたのかと思ひます。鶴田君ならもう少し気のきいた言葉づかひをやるでせうに。

独立戦争は中々骨です。書くのは楽しいが、まだどうも自信あるものが書けさうにない。もつともつと本を読む必要があるのです。

おみやげの牛肉は今日も三食につかひましたが、明日の僕の誕生日のために残しておきました。尤も今日は陽気があたたかいので、もう一度熱を加へました。明日は配給酒で、独り自分の三十二回目の誕生日を祝ふつもりです。あなたもきつと僕のことを考へてくれるだらうと思ふから。いはば山の彼方と酒くみかはすつもりなのです。

僕が帰京して、あなたもさびしがつてゐるかしら。どうか元気に氣持を起して、勉強にしろ生活にしろ、自信を以てやつて行つてほしいと思ひます。僕もきつと貴女の信頼を裏切らないやうに、一生ケン命やつて行きますから。今日もLeddyととりくんでゐます。それにしても世界政治の展開も容易ならぬものありますね。スターリン議長<sup>②</sup>の演説は全く意味深長です。あんなにはつきり日本を侵略国と規定したと云ふのは、米英に対するデエスチュアか、日本に対する

それか、或ひはまたアメリカに基地を提供する可能性を示唆したのか、何とも判定つきかねますね。それにしても世界政治の現段階の判断に最も重大な意味をもった演説だと思ひます。ルーズヴェルトも四選されましたが、議会の民主党の勝利については、その内容の判断はすぐにはつきかねます。即ち民主党の急進派が多いか保守派が多いかは見当がつかないのです。それによつてアメリカ政治もいくらかわかるのでせうが。

十一月十日（金）曇。

昨夜はあたたかくて、雨になるかと思つたが、どうやら雨だけは助かつた。だが昨日のやうな快晴が望ましかつたのに。今日はせめて誕生日のおいおい（はじ）にと思つて、豆ごはんの外に里いも、しひたけ（最後）、凍豆腐、カボチャ、ジャガ、ねぎ、之だけ入れた煮物をつくりました。例によつて柿の皮から糖分をとり酒も加へました。牛肉をあとかから入れました。早目にあらはれた竹中君、白田君は、よだれをながさんばかりにうらめしさうに鼻をくんく〜云はせましたが、之は僕の昼と夜との食糧だから、今日はわけてやらんよと云つてしまつてしまひました。

折角の誕生日なのに、今日も防空壕の水汲みです。朝、小包（便センとタバコ）を作りましたが、出す余裕もなく、せつせと勤勞奉仕です。腰の上の部分、水を汲んではねちるので、いたくて昨日よりはつらかつた。西井君はやつと今日あらはれたのだが、今度は前ほど食べ物に満足して来なかつたらしく、「二ヶ月ちがふとすごいほどちがつてしまふ」と慨嘆してゐました。大阪ではさつまいも一貫匁十五匁から二十匁、とりは一羽七、八十匁ださうです。来る早々水汲みで、「腹減つた、腹減つた」と云ひどほしでした。午前中にやはり五、六寸汲み出したので、あと一日ですむでせう。中島君の詩を、昨日白田君に託して森井さんに読んでもらつたが、あの「プロシオン」へのせた僕の詩は、彼女は殆ど一字一句暗記するほどくりかへし読んでくれたのださうです。今度のはまだ感想はもらへないが。白田君はあなたのことを「菊池さんの奥さんは本当に大人だわ。森井さんなんかよりずっととずっと大人ね。何て云ふのかしら、森井さんにはまだ甘さが抜け切らないとでも云つた感じなんでせうね」と云つてゐました。僕から見ると、森井さんは余りに「自己完結」的でおさまりすぎてゐる、それが大人つぽく思へてゐたのだが、白田君にさう云はれてみると、むしろ大人つぽいと云ふより、どこか子供つぽいと云ふべきかも知れませぬね。何れにせよ、「自己完結的」と云ふことは余り僕の趣味にもあはないし、感心しないので、時々森井さんと議論する必要があるかと考へてゐます。だが向ふ（こ）では僕達のことをどう感じたか、またどう思つてゐるか。とにかく白田君もあなたと森井さんとを全く対照的に感じたらしい。



僕はあなたが「自己完結的」でないことを、いつでも前へ、外へ開いてゐることを、その点ではアンネットのやうであることを望んでゐます。僕もさうでありたい。今の所あなたは、たしかに「自己完結的」でない、それが僕にはあなたの若々しさと感じ、例へば臼田君には「大人」と感じるものなのでせう。だが自信をもつこと。僕があなたを誰に対しても、どこに於ても誇つて居るのですから、あなたも充分自信をもてる筈です。(こんな云ひ方は僕の自惚れになるかしら)。

午後青山へ行き、渋谷駅でトランクを受取つて、エッチラオッチラ帰つて来ました。さて、夜。風が出て、冷え、外は雲が多くて星もろくに見えないが、朝煮た煮物をもう一度火にかけ、ホウレン草のオヒタシをつくり、おいもも少しふかして、たつぷりとごはんをたべました。冷酒をコップでのみました。今日の野菜の配給は大根の菜葉三本ばかりで金二銭也。馴染の農家では都から畑ごと買はれて、僕達へわけてくれにくくなつたのです。供出を強化された形なのです。それでも週二回に、全部で二、三貫つづつ、従つて一人当り日に百匁ぐらいの野菜はもらへることに何とか話をつけました。それについて僕の発案で、その家の子供達に紙芝居を進呈することにしました。野菜用の資金が既に十五、六円になつてゐるので。

その中この辺でも小麦粉の配給があるかも知れません。他所ではとづくにあつたのに、この辺が一番おくられてゐるので。で、重曹かふくらし粉を御願ひします。

ではおやすみなさい。明日は夕方から在郷軍人の訓練で、木銃をもつて国民学校へ五時参集です。五時なんかに行けば、飯が食へないし、風邪がなほつてゐないので、何とかさぼらうと思つてゐます。八木君に招待もうけてゐるし。

### 幸子から謙一あて(一九四四年一月一〇日の記・消印)

十一月十日

東京も朝夕寒々として来たでせう。

自炊生活は其の後順調に行つてゐますか。あなたのあるうちは一度も果物がはいらなかつたのに、其の次の日に柿(ジュクシ)がはいりました。もう一日早かつたらたつぷり食べられたのね。あれつぽつちのおいもでは、もうとづくにおしまひになつたでせう。今日のおたん生日はどうなすつたかしら。

あなたの帰った次の日（八日）朝からセルを解きにかかりました。ためしに小布を染めましたが、此の頃の染料はひどくわるいので、きれいに染まりません。染め屋に出せばすこしはましかも知れませんが、今年中に出来上る可能性はありませんから、あのまゝ使いました。色も柄もわるくないし、あなたには似合ふ色ですから。古くなって汚れたら、改めて染めても晩くないでせう。

八日、九日、十日の午前中一杯かかつて、よう／＼完成致しました。又すこしがブ／＼に出来ました。着てみたら案外よいのぢやないかと思はれます。お父さんにも着てみて貰ひましたが、巾はひろすぎる様ですが、元の身体が太つてゐるせい（笑）でせうね。神丈（笑）もすこし長すぎたかも知れませんが、肩台をいれておきました。嫌なら取つてしまつて下さい。かんたんに着けておきましたから。フーチヤンにも断つてのや六ヶしい（マ）ところはやつて貰ひました。結局これがおたん生日のお祝ひになりました。本当はほんてんと万年筆にしたかつたのに。

あなたが帰つてからは、急に淋しくなつて気の抜けた様な気持ですが、悲しんだり心配したりはしてゐませんから、心配しないで下さい。ブルーズが出来上つたから、これからはプランティシヨンの緒論のノオトとりを致すヨ定です。昨晩はねる前30分、ハツカーをよみました。題にくらべて内容の読みよいこと、此の調子なら、毎晩床にはいつてから30分一時間づつ楽によんでゆけるでせう。

又一段と寒くなつて午前中二階の部屋はブル／＼する位ですので、フーチヤンの置炬燵を出してもらひ、今いたところ、早苗が来てダンテおぢちゃんを炬燵で見えてゐます。

ブルーズと一緒ににかいいものををおくりたいけれど、今日は何もありません。牛肉は相等（笑）もちこたへましたか。又廿日ころに買へたら、佃煮（笑）にして送るつもりでは、今日はこれでさようなら。

謙一様

幸子

### 幸子から謙一あて（一九四四年一月一〇〜一一日の記）

十一月十日（晴）九度

午後から緒論を読み返し始めました。今度は一寸も言葉の六ヶしさ（マ）も、文章の息の長さも何の苦勞も感じられませんが、

よく知つてわかつてゐる事をまとめてある、と云ふ風に気安く理解出来ず。結局緒論にある事は、今までよんで来た中に始終あつた事ばかりで、オヤ、これは今さつき読んだばかりのところぢやないかと思つた位です。外の人も私の様に始めと最後まで、二度に亘つてよんだらよいのですね。そんな風な事を何処かに書いて置けばよかつたのと思ひます。

さつき(一時ころ)ブルーズを出して来ました。一諸<sup>種</sup>に粉を少々(200匁)と重曹を一箱いれておきました。粉は一貫匁あつたのを、すこし家で使つたので、此の次はいつた時、三〇〇匁位又送るヨ定です。重曹はいれすぎると妙な味になります。胃酸過多の人にはよいかも知れませぬ。

小使さん、お酒のお燗瓶はよろこんだでせう。其の代りに夜のうちこんろを下ろしておいて、火を起して貰つたらどうでせう(勿論こんろの中には炭をいれておいて)。小使さんの方だつて自分のこんろの火の中へ炭を一寸いれておけば火がつくのだから、たいした手間もかからぬ事ですから、さうなさいな。

十一月十一日

今日も晴れたりとは云へ、あまり芳しくない天候。東京はどうでせう。いねちゃんの手紙だと、晴天の日は警報が確実に出るとのこと、芳しくない空模様の方がいいかも知れませぬ。あなたの帰京以来ボーイングはあらはれぬ様ですが、—今度あらはれる時は恐ろしい事になるのでせうね。

緒論のノオトを始めました。ノオトは時間がかかりますが、其の代り確実ですから。今日は四から始めます。今度はこちらもむづかしいと思へないから、不思議なものです。ノオトは原稿紙に二行づつかいて、一が一枚半、二が三枚半、三が四枚になりました。

一の語義のところは、始めて読んだ時はどうやら何が何だかわからなかつたらしいけれど、今度は大変よくわかりました。唯、オランダやスペインの植民地も(アジアの)、当時プランテーションと呼んでゐたのかしらどうかしらなどと思ひました。

二で、プランテーションのアメリカ南部に於ける場合のプランターの寡頭権力が、南部のみならず、アメリカ中央政治にまで強い支配力を持つこと、プランテーション制度自身がプランテーションの経済的發展を妨げてゐること、プランテーションの發展のみならず周囲一円、そして国民一般の發展近代化を妨げ、生活水準を妨げる障害物であること、の

ところの意味は―古い社会制度の遺制がどんな働きをするものであるかと云ふ事を本当によく考へる事が出来、あなたがこちらにゐる時、二階の窓ぎはで話した事―自分の中に残つてゐる古い残滓が進歩をどんなに阻むものであるか―と云ふ事を、もう一度思ひ返しました。今度の私の場合を考へても、ぴつたり一致するのです。

あなたが私の心配や杞憂を「嫌な面」と指摘した事ね、あの事は本当に私の古いおくれた感情が前面に押し出され、さうしてそれを支持するために外の人のあゝ云つたかう云つたと云ふ事や、たまゝ大げさに人の伝へた噂話などを持ち出したりして、私の下らない杞憂を合理化したり、確實さを与へ様と無意識的にさう云ふものと結びつかうとした事、さう云ふ私の傾向をあなたが指摘したのです。今となつてあなたの云ふ意味はよくわかります。実際に見た白田さん個人を考へると何ともないのに、漠然と女友達としての白田さん―と云ふ風に考へると、前に云つた様な感情を刺戟されるのです。併し其の事も今は本当に何とも思はなくりましたから、決して心配しない様に。

二度目に読んだから緒論がよくわかつたと云ふ事も事実ですが、矢張り大部分は此の二週間程あなたと一緒に暮し、ほとんどプランテーションの話をした事が大きな理解力を与へられた事実です。常に二人の間の話題となつた事、あなたからよくきかされた事が、理解力を進める大きな力であるのです。南部に於けるプランテーションの害悪は本当によくわかりましたし、同時に私自身の清算すべき遺制と、その悪結果もよくわかりましたから、どうぞ本当に安心して下さい。

そしてもう一つ、ソ聯のシユクセイの意義も又改めて再認識致しました(三の資本主義の発展の三つの段階とプランテーション制度の性質規定のところ)。あれ位峻厳に、あれ位徹底的に古き悪しきものは清算し、解決をつけねばならぬ事の意味がよくわかりました。解決し得なかつた事は、アメリカ資本主義の当時の段階としては、歴史的な限界性であつたのでせうか。

今日(十一日)午後四時ころ、あなたのお手紙つきました。汽車は楽でよかつたこと、炬燵の七日間程の後、火なし生活はさぞ佳しい事です。私もあなたの生活を考へるので、炬燵にはちつともはいらずがなばるつもりです。あなたが帰つてから一度もまだ炬燵にはいりません。

佐々木さん何だつて又電話なんかかけたのでせう。ヒョーキン(へっ)な人ですね。きつとあれこれ昔の部下の動静をたづねまはつて、方々へ宣伝がてらの電話をかけた事です。

あなたのお勝手や二丈(ふた)の部屋、火を起すところを思ひ出し、不便で気の毒でなりません。これから段々寒くなるし、炊

事も便利がわるい丈、尚更辛くなることでせう。本当に其の点はお気の毒です。火は小使さんにおたのみになつたらどうでせう。あの部屋の夜は落ちつくけれど淋しいのね。私一人ならとうていゐられませんが。何となくおつかない。あの洋服ダンスや二丈や西井さんの部屋が、夜になるとこはくなりませぬ。

あなたは手紙で、私の「心配」の事を気にやんで慰めてくれておくれですが、—もう何もその点で心配する事はありませんの、本当に。あんなにぐずぐず云つたのも、云つて見ればワヤを云つて甘へたい心理だったのでせう。今にしてみると、何故あんなにぐずついたか、自分でもわからない位です。もつともあれ程ぐずぐず云つたから、もう何も残らないのかも知れません。どうぞ本当に気にかけてあげず、勉強専心にして下さい。空襲の危険もあなたには何事も無い様に祈ります。では今日はこれで、さようなら。新原稿の方、手つき始めましたか。

今度Bが来た時は見物なんかしないで、防空ゴーにいち早くとびこんで下さい。さうして手まはりの持つて出るものを用意を、ふるしきに—とまめにしておいて下さい。

あなたの手紙、ごち走を根ほり歯ほりきいた話は皆に話して笑ひました。あなたのセキや風邪は其の後どうですか。夜寒いのかも知れないから、オフトンをかけるようにして下さい。

家の猫は二匹とも、今日の午後死にました。昨夜外で猫いらすをしかけたものを食べて来たのです。一晚中吐いて苦しみ、クラ／＼になつてタン汁を吐きつくし、二時ごろ赤の方が、二時間おくれでくろが死にました。くろは呼吸のあるうちにカンフルを注射しましたが、返つて苦しみを強めたのか、身体が冷めたくなつてから二時間も心臓が動いてゐて、ハ／＼と深い吐息をもらし、最後の廿分間はダンマツマの苦しんで七転八倒、苦しい声でうめきつづけ、死と生命との真けんな戦ひを如美にみせ乍ら、とう／＼死にまけて動かなくなりました。私はあんな小さいものの死の苦しみを如実にみて、かわい相で涙がとめどなくこぼれました。ふーチャンと庭にうめて墓を作つて、バラをさし仙香を立ててやりました。

### 謙一から幸子あて（一九四四年一月一一〜一三日の記）

十一月十一日、土（曇）

前大戦の休戦記念日だが、今度の戦争はまだ之から暫く終結と云ふ所まで行かないでせう。前大戦と比べて、ずい分異

つた展開をしたものです。

今日は芦野氏の電話で三人（西井、倉橋両君と僕）が午前中本室へ行きました。サッカー、まだわからないけれど、申し込むだけは申しこんでおきました。本室もさびれました。知らない顔がふえたせいでせう。だが宇賀が五十日はかりの肋膜欠働からやつと出て来てゐるし、浜恒も一年越しの肋膜がどうやらなほつて、ぼつ／＼出て来てゐるさうです。芦野氏の用は半ば雑談的に簡単にすんだので、西井、倉橋両君と学士会館で昼食をとりました。そこで山田君と云ふ友人に会つて、「本を頼むよ」と云ふわけで少し立ち話をし、神田の本屋を歩いたら、奴隸制時代の奴隸解放論者の叢書が、十一冊八〇円で出てゐました。やたらにほしくなつたので、竹中君に借金しようと思ひました。二、三日の中に売れたりしなければいいが。

東京は此の間のB29の訪問以来、大ていの男はゲートルに訓練服、肩かけカバンで、鉄カブトと防毒マスクを背中へせおつてゐます。僕は今日は紺の背広だけで、コートもボキシもなしでした。経堂へ帰ると、また本棚整理の勤勞奉仕でした。英研の連中は今朝も防空壕水汲みをやつたのださうです。西井君はズルをして、神田からどつかへ消えて了ひました。

あなたの手紙来てゐる筈だがと、何度も郵便受けをのどいては失望。今朝小包と手紙（No.16）を出しましたよ。またタバコ配給ありました。之は二、三日中に送りませう。今度は「ヒカリ」六箱です。このタバコは僕の知らない間に小使さんが登録しておいてくれたのであり、それをヤミの材料にしてゐるわけでないから、まあこのままもらひつづけませう。だからお父さんでもふぢちゃんでも利用して下さい。こちらから送れるものはこんなものくらいよりないのだから。米の配給はまたおくれます。外の配給がすべて最もよくないのだから、タバコくらいはいいわけだせうね。トウフなんか、この四ヶ月近くの間一回も配給受けなかつたのだから。信州からの食糧は、牛肉だけは昨日すつかり食べて了つたが、あとはねぎもおいもパセリもハウレン草も大切に少しづつ食べてゐるので、半分以上残つてゐます。いねちゃんにパセリを上げたいが、あらはれないのと、銀座へ行つても必ずしも会へないために、まだそのままです。

またピアノをやり始めました。専ら夜、食事の前後だけです。二十日はかり全然触らなかつたのでおさらひをやつてゐるのです。

今夜は郷軍の訓練の回状が来たが、風邪がまだなほつてゐないのでサボりました。少し熱もあるらしいので、配給の酒をのんで寐ませう。



十一月十二日(日)曇。

日が照らない朝はさすがに冷えて、若干起きにくくなりさうです。石炭の火を多く起して、暖房にも利用します。お手紙、ヤット、有難う。ブルーズを作つてくれてゐたために書けなかつたのですね。さうとしらず、不平がましいことを洩したりしてすみません。誕生祝ひのブルーズを大いに期待します。二、三日中に着くのでせうね。

お元気のやうで安心しました。僕のことには心配せず勉強して下さい。「プランテイション」の感想を待つてゐます。ハッカーも面白いでせう。さう云ふ風な書き方は、歴史家としては余り書きたいやうな方法でないが、要領よく経済史を覚えさせるのにはいいでせう。ハッカーは鈴木圭介君などの系統と見るべき経済史観です。

今日はホウレン草の油いためや、おいもやカブラ、大根のフロフキ等を作りました。小使さんは尾久の家へ行き、一人留守番したので、大分ピアノをひけました。風邪がなほらないから、今日は早川君とこへは行きません。曇り日で寒くて、さびしい日です。あなたの手紙だけがそのさびしさをまぎらせてくれました。尤も午後にはスモウの放送をききました。

ソフォクレスを読んでゐます。アイアスはイリアツドのテーマを卑少(下)にしたやうなものです。アキレスとアガメンノンの対立が、ここではアイアスとアガメンノン等との対立になつてゐて、人物も何もイリアツドよりはずつと小さく低級ですね。アキレスは駄々つ子のやうなところがあるが、アイアスになると馬鹿ですね。

早苗ちゃんのだんて熱はまだつづいてゐますか。早苗ちゃんあたりには地獄の概念はムリでせう。だから、たゞ絵としてみるだけですね。ちつとも「怖い」とは感じてゐないでせう。それでいいわけで、怖いと感じさせないことが必要です。シモンズのダンテも面白いですよ。

大分ひえるので、早目に床へ入りませう。酒もおしまひになり、ビールはさむくてのむ気にならず、結局床の中より外は、暖い所はなささうです。その床も冷たさがひとしほ感ぜられる此の頃です。

柿は一つだけジュクしたのでたべました。もう一つはまだ固いのでそのままにしてあります。砂糖は明日ぐらい買へる筈ですが、〇・二五斤(十銭)ですから、粉でもあればオヤキを数回つくつて、それでおしまひと云ふ程度でせう。戦局の辛カラさをしみく感じさせますね。

今日は下から大ヤカンを借りて、湯をわかし、頭をあらひました。こんな寒い日に風邪気のままあの汚い銭湯へ行く気にはならないので。さつぱりしました。

此の家も柿や栗がなくなると、一層殺風景になります。それでも石炭があつて火が起せるから、いい方かも知れない。水も此の頃よく出ます。そのかはり防空壕の湧水も多いわけです。では今夜は之だけでおやすみなさい。

十一月十三日(月)晴

快晴です。昨日とうつてかはつての。露台のふちの夜露のかわくのを待つて、ふとんやら上しきやらをほしました。風は冷くて、秋深い感もひとしほです。信州は今頃の方が感じが出たのでせうね。山の雪や紅葉などは、きつと見頃なのでせう。麦まきもすんで農家にもくつろぎが出ようし。武蔵野の此の辺は畑がはだかになつたのを除いて、さう秋を感じさせるやうなうつりがありません。常緑樹が多いのでせうか。此の家のまわりも柿が紅葉し、桜が裸になつただけです。

ソフォクレスを読みながら、ギリシヤ悲劇に固有な葛藤、古い倫理と新しい倫理との、古い型と新しい型との対立、公的な政治的な契機と私的な真情の契機との対立、そしてそれらを買いてゐる神Ⅱ正義Ⅱ理法(ソフォクレス以後になるとこの理法Ⅱ正義は理法Ⅱ運命になる。このことはギリシヤ社会の向上(従つて市民としてのありかたと公民としてのありかた及び人間としてのありかたの勝利的な一致)から、その下向期(市民と公民と人間との分裂、人間の無力感Ⅱ運命の成長)への転移を意味するのでせう。アイスキロスからソフォクレスへの下向)の觀念の健康な強さにうたれます。またアンチゴネーとイスメーネーとの対比は、オイジプスとイオカステとの対比の延長だが、実にアンネットとシルヴィの対比にまで来てゐるのを感じます。英雄的と卑少的と。

英雄的とは個人の生命地位の存続よりは、より大きい普辺、理法、真理、歴史への合体統一を希求し、その為には自己の生命地位の最も悲惨な破綻をもあへて避けない、卑俗はその反対に個人の生命地位の防禦から一步も出ようとならない型。創造的と防禦的。前進的と後退的乃至停滞的。それにしてもオイジプスは偉大な形象ですね。アイスキロスのプロメテイスと共にギリシヤ悲劇のうみ出した最大の個性です。アイスキロスのオイジプスをなくしたことは何と云つても世界史の痛恨事です。

昨夜は汪兆銘が死んだために、寄席中継がなかつたですね。だん／＼笑ふ機会も少くなるでせう。小学生のラジオの歌をきいてゐると本当に悲しくなりますね。何と云ふ悲しい歌ばかり歌はれるのでせう。此の頃の国民歌謡の大部分は、



人間を前へ駆り立てるよりも、後へふりむいて気持をどこか地の底へでも引きこまれるやうな感じをさせます。生活の貧困は音楽の貧困へも決定的にひびいてゐるわけですね。

明日、藤本君が秋田県かどこかへかはるので、学士会館で送別会です。

では又。

謙一

幸子から謙一あて（一九四四年一月二日の記、一三日の消印）

十一月十二日くもり

曇つて寒い日、東京のあなたの部屋もこんな日は陰気で侘しい事だせう。昨夜は十時に寝ました。今朝は七時近くまで。此の頃はあんまり寝すぎるせい<sup>①</sup>か、朝目の覚め際は苦しい様な感じが目ぶたのまはりにつきまとひます。あなたは六時には起きるのですか。

お母さんは思い出した様に「謙一さんはどうしとら、何食べとら」と云つてゐます。本当に私も何食べてゐるか知らと、食事毎に思ひ浮べて居ります。おやつも火もない淋しい部屋を思い出して、何か送るに良いものでもないものかなアと、キヨロくしてゐます。夜は寒くて困るでせう。そろく残り火で足台に火をいれるとよいですね。

おひるすぎに松尾の八幡山にゴカキにゆきました。（簡単な図が記されているが省略―編者注）こんなもの（熊手の一種）を右手に、脊中にシヨイ箆をしよつて、岩崎さんと二人で約一時間かかつて、箆とふろしき一杯に松葉をつめて帰りました。松尾の八幡山とは、松尾村へゆく旧道の裏手に当る丘陵です。そこから松川も天竜川も川向ふの富田方面もみえます。景色はいいし、適当な運動で汗ばんで来ました。午前中は潰れたので、午後は二階でゆつくり勉強のヨ定が、三時まで駄目になりました。これから緒論のノオトとり一時間、四時から一六時半までは夕方掃除と食事にとられます。では又、晩に続を書きませう。

おふろから上つて七時半から九時半まで、四のノオトをとりました。一〇枚書いてもまだのこつてゐます。独立戦争や南北戦争の正体が

とてもはつきりしました。アメリカの商業資本と独立戦争、産業資本と南北戦争—それから産業資本の反動化↓帝国主義化の過程がよくわかつて面白かった。時々、三のところとませこぜになる様でしたが、段々両者の視点の相違もわかつて来たし、ゴタ／＼してゐる様でゐて、ノオトにすると中々整然としてきました。それに夫々の時代にはいると、前の時代の事が始めに要約されて出て来るから、尚理解を助けました。それにしても凄くベタ組にしてゐるのね。組み方があまり追ひこみすぎてゐるのは、たしかにある程度読み辛くしてゐる原因でせう。ノオトは随分時間をとる割に中々進めませんね。何だか、まだせつついてはいけない様な気持ちになりますけれど、—感想がすこしおくれても怒らない様にして下さい。充分の理解や消化のためには、あまりあせつたり急ぐと悪結果しかないと思ひます。

昨日の夜、何気ない話からアメリカの成立や独立戦争、南北戦争、プランテーション制度、アメリカ憲法と日本の憲法、黒人奴隷制度、—今次の戦争と黒人問題等の話を、お母さんに話しました。話してゐるうちに、お母さんにも随分深くアメリカの政治とプランテーション制度のことがわかつた様に見え、私自身も何時のまにかエラクアメリカの歴史に精しくなつてゐることや、読んでゐた時にはそれ程はつきりしてゐなかつたことがはつきりしたりして、吾乍らゆ快に思ひました。あなたの今度の本がそれを指摘し、問題を出してゐるのだと云ひましたら、「ヤール」と云つて驚いた様な感心した様な顔をしてゐました。結局、思ふには亀の子式の読み方、ノオトの積り積つた結果だと思ひます。

緒論だけのノオトはもう22枚にもなりました。例によつて図表にしたり、二重になつたりですから、尚長くなるのでせう。ノオトをとりながら、此のプランテーションを終りまでノオトしたら、始んどアメリカ史をやつた事になり相だなアと思ひました。今度、あなたのアメリカ史(叢書の)をよむときは、随分楽だらうとも思ひます。

経堂へ帰つてからオフロへ這入りましたか。私はあなたが帰京してから二度目です。今夜は淋しい野分—よりも木枯に近い様な風が吹きます。おそらく東京も風が吹いてゐるんでせう。あの淋しい部屋の夜、机に向つてゐるであらうあなたの姿を想像すると、悲しい様な切ない心持になつて、暖いお茶だのあまい干柿だのを、持つて行つてあげられたらと思はずにはゐられません。早くブルーズが着いて、夜すこしは暖くゐられるといいのに。

では今夜はこれで、風邪を早くなをすよう、オフトンをかけておやすみなさい。

幸子